

魔海少女ルルイエ・ルル2

羽沢向一

挿絵／ピエール☆よしお



立ち読み版

CONTENTS

- 日記 008
- 第一章 這い寄る担任 019
- 第二章 無ブラの神 053
- 第三章 ガクエンサイダー 090
- 第四章 七つのエロい アトラク=ナクアの娘 ... 107
- 第五章 魂の射乳(元ネタわかりにくい)シスター・H・ウェスト ... 159
- 第六章 グールズ・デッド・モンスター 眠りの神の娘 ... 212
- 第七章 艶めくトラペゾヘドロン 237
- エピローグ 302



CHARACTERS



るいえ
流家ルル

海の底からやってきた海神クトゥルフの娘。地球支配に向けての視察として学園生活を謳歌中。白く名状しがたい触手を操る。



みそくちごぜ
溝口梢

大神ハストゥールの娘にして恋する文学少女。控えめな性格に反して神の力を解放するとクールで妖艶な姿に変身する。



だんまきみ
団正実

奈緒也と仲がよいクラスメイト。ヨグ・ソトホートの息子だがルルに敗北してその力を失ったマゾ。



ふかきなおよ
深城奈緒也

ルルに居候されている愛倉学園の二年生。ルルの第一の眷属として徐々に人間離れた力に目覚めつつある。

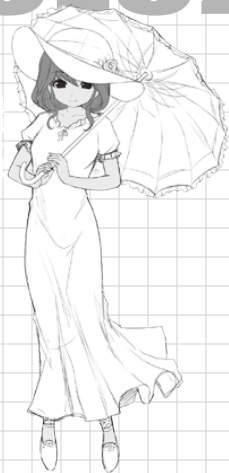
あしゅういんありさ
亞州院亞理紗

奈緒也のクラスメイトで傲岸不遜なお金持ちのお嬢様。高飛車な性格でFカップ爆乳のグラマー美人。



あとうらくな 阿藤烙奈

愛倉学園祭に遊びに来た、白百合のような雰囲気
で華奢な身体つきが保護欲をそそる清楚
可憐なお嬢様。



うるしはら おめぐみ 漆原尾芽久美

亜理紗をも凌ぐ爆乳肉感ボディの
新任教師。掴みどころのない混沌
とした性格でしゃべると残念な美女。



べにかぎ まち 紅鈎真千

ガールズロックバンドのドラムを
担当する快活な美少女。愛倉学園
祭ではライブステージを披露する
予定。



テレサ・H・ ウェスト

学園祭に遊びに来た(?)金髪碧眼の
美女。敬虔なクリスチャンと
いった風貌だが…?

女教師たる神の言葉は耳に入らない。意識のすべてが、あらわになった下半身に集中してしまふ。

芽久美先生も男子生徒の視線に應えて、両手を後頭部にまわし、背中をそらして、下半身を突き出すポーズを取った。

この一週間、普通に授業をしていれば最高にセクシーだ、と生徒に噂されていた芽久美先生の身体が白日のもとにさらされる。

雄大なバストを支える上体から、ウエストは細く締まっている。といつてもテレビに出ているアイドルたちの細い身体つきに比べれば、ウエストサイズは大きいだろう。バストとヒップにたっぷりとボリュームがあるために、きれいにくびれて見える。

そのことを見せつけるように、芽久美先生が奈緒也の前でゆつくりと一回転した。目の前を通り過ぎた尻は、みっしりと肉がつまっついていながら、高く突き出している。

再び前に来た恥丘は、驚いたことに陰毛が生えてない。それもまた人の姿をした神にふさわしい神秘を感じさせる。

つるんとした肉の丘は、自分から脱いでいながら肉唇をぴっちり閉じて、芽久美先生の最後の秘密を生徒に明かそうとはしていない。それでも白い肉がふつくらと盛り上がり、内側に秘めた果汁の豊富さを想像させる。

奈緒也の頭の中に梢への思いがしっかりと根づいていなければ、両足が床に貼りつけら

れていることも忘れて、欲望のままに熟した女体へ跳びかかっていただろう。

「ねええ、奈緒也くん。先生にパイズリいされるの」と

芽久美先生の両手が、自らの爆乳を下からすくい上げて、ふるふると揺らしてみせた。

「先生と普通にセックスするの」と

両手が胸から腹を滑り降り、閉じたままの無毛の恥丘を愛撫するようになでまわす。

「どちらがいいかしらねえ」

「な、なにを言ってるんですか。ぼくは」

「稍ちゃんとしかしなあいと言いたいのね。そうはいかないのよ。奈緒也くんは先生と交わらなくちゃいけないの。だけど、それはクライマックスね。今日はパイズリだけがまわしてね。そのかわり、ハーレム気分を味わわせてあげるわあ」

ふいに淡い影が、奈緒也の頭上に落ちた。

顔を上げると、純白の日傘が頭の上に差しかけられて、クルンクルンと軽快に回転している。

日傘の柄を、色白の華奢な両手が握ってまわしていた。

「はじめまして、奈緒也さん」

さつき芽久美先生の言葉を止めた姿なき声のひとつだ。

声の主は、日傘と同じ純白の帽子をかぶり、サマードレスを着た少女。年齢は奈緒也と

同じくらいだが、ふわりとした栗色の髪に縁どられた顔は、清楚な上品さがあり、大人びた印象を与える。身近にいるお嬢様並州院並理紗の押しつけがましいゴージャスさとは対極の、高原の高級別荘にいるのが似合う御令嬢という雰囲気だ。

「わたしはナイアルラトホテツプ様の眷属。阿藤烙奈あとうらくなという雰囲気だ。どうぞよろしく」
可憐な美貌にさわやかな笑みを乗せて、烙奈の顔が奈緒也に迫ってきた。

とっさに奈緒也は両手で烙奈を押しとどめようとするが、両手が見えないなにかにひっかかり、動かせなかった。

「やめてくれ、うんんっ」

「んふふ」

上品な笑い声混じりのキスが、奈緒也の口をふさいだ。梢のキスとは違う。不思議な花の香りがする。脳の奥がぼうつと痺れるように心地よい香りだ。

烙奈とのキスが近づいている間に、芽久美先生の背後から、明らかに芽久美先生よりも背の高い女が出てきた。

「奈緒也さん、はじめてお目にかかります」

少し巻き舌の入った発音をするのはシスターだった。

奈緒也が実際に見るのははじめてだが、頭に黒い頭巾を被り、全身を黒い修道服で隠すキリスト教のシスターに間違いない。首から下げたロザリオの金の十字架が、黒く盛り上

がる胸の上で輝いている。

全身を包む修道服から見える素肌は、顔と手首から先の手だけ。なめらかな白い肌は、白人のもの。

わずかに覗く前髪は、十字架と同じ金色。瞳は、山奥の深い湖のような紺碧だ。

「あなたに混沌たる主ナイアルラトホテツプ様の御加護がありますヨウニ。ワタシはテレサ・H・ウエストといいマス」

烙奈のキスから解放された奈緒也の口に、間髪入れずにテレサの唇が密着する。

「う、んんんっ……」

（舌が入ってくる！）

ディープキスははじめてではない。しかし。

（長い！ 長すぎる！）

眼前にある顔は、真面目そうな白人のシスター。息遣いすら周囲に遠慮しているように聞こえない。しかし奈緒也の口の中に侵入してきた舌は、ニチャ、又チャ、ネチュツ、と粘つく音を奈緒也の脳内に響かせて、前歯を舐め、舌をつつき、そして扁桃腺を越えて食道にまで入ってきている。

そこまで異物が入ってくれば、苦しくて激しく嘔吐するはずだが、感じるのは指で皮膚をなでられるような気持ちよさばかりだ。

奇怪なデューブキスの最中に、三人目が近くの机の上に立っていた。

「よう、奈緒也」

机からピョンと跳び下りた女は、制服を着ている。

しかし愛倉学園のものではない。奈緒也の知らない学校のものだ。

茶色のブレザーに、黒いベスト。赤いネクタイ。グレイのチェックのスカート。茶色のローファー。

しかし衣服よりも、髪を緋色に染めているのがやたらと目立つ。

そのくせ凛とした吊り目が印象的な顔は、真面目な委員長タイプに見える。いきなりロツクに目覚めてしまった優等生という感じだ。

奈緒也の手首をつかんだ両手に、黒い革の手袋をはめているのも、やはりロツクをやつてますっばい。

「俺の名は、紅鉤真千。ナイアルラトホテツプ様のメンバーだ。よろしくな」

テレサの舌が口から抜けると、入れかわりに真千の強引なキスが来る。

「はむっ」

「んぷっ」

なぜか唇が重なるとともに、頭の中に奇妙な音楽が響いた。ロツクではない。ポップスやジャズやクラシックでもない。奈緒也が聞いたことのない奇怪な、しかし耳あたりのよ

いリズムが脳内に反響して、意識をどこか遠くの彼方へ持っていかれそうだ。

真千の口が離れると、正面の全裸の芽久美先生、左右と背後の烙奈、テレサ、真千の合計八本の手が、奈緒也の身体にたかった。やはり身体は見えないなにかに縛られているように、奈緒也はただ棒立ちになり、されるがままでいるしかない。

「奈緒也くん、裸のすっぱんぽおんになってね」

複雑に交差して、どれが誰の手か、誰の指なのか、わからないまま、たちまち奈緒也の制服のボタンがはずされる。ストラックスのベルトが抜かれ、向かい合う芽久美先生と同じく全裸に剥かれてしまう。

自分でも驚くほどに、ペニスが大きく激しく勃起している。剥けた亀頭が破裂しそうなほどに濃く色づいて、自身の腹に当たった。

「さあ、パイプリーをしてあげましょうねえ」

芽久美先生にまた幼児をあやすように亀頭に声をかけられて、両手で肉幹を握られる。それだけで言い知れない快感が、全身を走った。

「くっとううう……」

すでに図書室で芽久美先生に一度負けている。しかし奈緒也は抵抗を捨てるわけにはいかなかった。

「放せ！ ぼくは、ぼくには梢が、はううあっ！」

芽久美先生がひざまずく。限界までいきりたつ男根が、巨乳の深い谷間の入口に触れた。なめらかな女教師の乳肌が、熱くたぎる肉棒の表面に妖しく吸いついてくる。

「こ、これが人間の肌なのか!？」

「うふふふ。ハストウールの娘の胸よりも、先生の胸えが気持ちいいのかしら？」

芽久美先生が肉幹から両手を離し、自身の乳房にそつとそえた。

「ああんっ！」

鳥がさえざるように喘ぎ、奈緒也の鼓膜を震わせる。

同時に乳房が動いた。芽久美先生が手で動かしているのではない。二つの豊満な肉塊が自らうねうねと蠢き、奈緒也の勃起を谷間の内側へと引きずりこんでいく。人間には絶対不可能な、無貌の神の異様な肉体のなせる性技だ。

乳房自身の蠢動に巻きこまれて、奈緒也の分身は見る間に胸の谷間の奥へ没した。人生最大ともいえるサイズに膨張したペニスも、芽久美先生の豊満爆乳の前には、大人の女に抱きしめられる幼い子供にすぎない。亀頭の先端から付け根まで、すべて呑みこまれてしまう。左右の屹立乳首が、奈緒也の下腹部に押しつけられて、他とは異なる硬い感触がはつきりとわかった。

「ああん、乳首が、奈緒也くんのおなかにこすれて、先生、すごく感じちゃう。それに奈緒也くんのおちんちん、とつても硬くて、熱くて、先生、大好きよお」



恐怖に駆られた。梢の性体験の相手は奈緒也だけだ。肉体の悦びも、奈緒也からしか与えられていない。はじめて味わわされる奈緒也以外の快感は、恐怖でしかない。

（気持ちよさに、呑まれてしまう！ ダメッ！ 絶対にダメ。奈緒也以外の人から気持ちよくされるなんて、絶対にいやだわ。まして他の神に齧られて気持ちよくなるなんてありえない！）

全身の肌から身体を侵食する快感の大波に、梢は必死で抗い、意識を持っていかれないように努める。

しかしシスター・テレサの神の力と、やむことのない鰻の愛撫に、全身の細胞が勝手に順応してとりこまれていくようだ。

「うんっ……あ、はあああ……ダメ、ダメ、んんん、負けないわあああ……」

自分を叱咤する声も、なかばよがり声と化して、熱く濁っている。

シスター・テレサが舌を出した。人間のものよりも長く、先端が鋭く上がった舌が、上下の唇を舐めまわし、さらに顎の先まで舐めた。

「今まで数えきれない人間の快感を食ベマシタ。でも、梢さんほど頑強に抵抗する相手ははじめてです。さすがはハストウールの娘です。もっともっとたまらなく気持ちよくしてあげマス」

梢のボディスーツのハーフカップが、髪の束につかまれて一気に引き下げられた。もと

のDカップからふたまわりもサイズアップした美巨乳がどつとあふれ、大きく上下に弾んだ。その衝撃で、鰻が次々と海へ落ちていく。

シスター・テレサから流される異常なパルスに熱せられて、梢の乳房はいつそうポリウムを増していた。乳肉がパンパンに張りつめて、いつもの変身時よりもさらに前へと恥ずかしげもなくせり出していった。

針でちよつとつつけば、盛大な音をたてて破裂しそうだ、と梢は思ってしまった。

もとはクリームのように白い乳房の肌は、今は大きく熟した桃の実のような色合いに染まっていた。快楽に色づいた大きな乳房全体が、鰻がなすりつけた透明なぬめりにべつとりと被われて、夜の闇のなかに淫らな輝きを放つ。

桃色の球体の先端では、乳輪がさらに濃い色になっている。

その中心から、鮮明な色に染まった乳首が、痛々しいほどに高く、太く、屹立する。

(こ、これが、わたしの乳首なの！ こんなに大きくなっているなんて……)

奈緒也との交歓のときですら、これほど著しく勃起したことはなかった。

(……あああ、恥ずかしすぎるわ……こんな身体になっていることを、奈緒也に見られるなんて……)

自分の肉体の変貌を無様に思いながらも、見ているだけで乳首と乳房がズクズクと猛烈に疼いてしまう。まるで胸に新たな二つの心臓が生まれて、主人の思いを無視して、盛大

に鼓動を打って自己主張をしているようだ。

二つの乳房の下に潜りこんだカップからは、新たに大量の鰻が顔を出してくる。黒光りする魚の群れは、衣装の生きた装飾のごとく、豊満なバスタのまわりでくねり躍った。

「鰻よ、すてきな餌をついばむのデス！」

シスター・テレサの言葉を聞かされ、鰻たちが先を争って左右の乳首に殺到した。最速の二匹が、大きく口を開けて乳首に喰らいついた。

「きひっ！」

熱い悲鳴が、梢の喉からあふれる。

鰻の口内の細かい歯が、二つの乳首の表面に同時に未知の衝撃を与えた。

「ひっ、ひっいいいい——いいっ！」

梢は絶叫し、手足を拘束された全身を大きく震わせた。衝撃で身体のあちこちから鰻が弾け飛ぶ。左右の巨乳もことさら激しく揺れて、乳首から二匹の鰻が飛ばされたが、すぐに別の鰻が噛みついた。

「——いいいいっ！」

梢の悲鳴は長くつづいている。叫びながら、しかし自分が声を出しているという意識はない。乳首から湧き上がる快感の奔流に、まともな思考もできない。

意識が消し飛んでいる間に、それまで懸命に耐えていた梢の顔が、とろりと溶けていく。

眉毛が下がり、瞳の輝きがじつとりと潤んだものになる。

小鼻が大きくふくらんでは、また小さくなる動きをくりかえしはじめた。

唇がだらしなく開き、舌が口内で躍っている姿が覗く。

奈緒也は、恋人が本当に別の次元へ行ってしまう気がして、喉も破れんばかりに名を呼んだ。

「梢っ！ 梢、しっかりしろっ！」

奈緒也がはじめて見る恋人の面持ちだ。奈緒也との交わりで、梢は蕩けるような歡喜の表情を見せてきた。それは愛情の極まりを示す顔だ。見ているだけで、梢への愛しさが増す顔だった。

今の梢の顔に表れているのは、愛情もなにもない、ただ強いられた肉の快樂だけだ。梢を形作るたいせつなものを破壊して、別のものに創り変えてしまう快感だ。死霊のしたたり館で正実が語った、人が別のもにに容貌する恐怖をはじめて実感させられた。

そうなつてもなお、梢は言おうとした。

「き、きひつ、き、気持ちよく、なんかはああ……」

途中で息がつまり、唇の両端から涎が垂れ落ちる。まるで好物の餌をついばむように、鰻の口が喉に吸いつき、唾液を吸う。

「はっあああう——うう、ならないひい……んんあああ、あっううん……おまえなん

体をいつそう激しく飛散させる。

シユバツ！ ビシユシユシユアアアアアアアアアア——ッ！

快感に大波に持ち上げられた梢は、羞恥も抵抗心も失い、ただ頂点を極めた言葉を白い液体とともにほとばしらせた。

「イクうつ！ イクイクイクイクイクイクうつうつ—— ううつつ!!」

叫び声といっしょに、白い液体がシスター・テレサの頭から顔、全身の修道服と十字架に降りかかる。髪や肌や衣服にかかった白い飛沫が、一瞬で吸収された。

梢の液体は黒い海面に滴り落ちることなく、すべてシスター・テレサの体内に飲みこまれていく。

「——くうううう……うんん……ああああ…………」

長いエクスタシーの絶叫がかすれ声になって消えても、乳首から放出は止まらない。盛大な噴出はなくなったが、勃起したままの乳首の先から、ちよろちよると流れ出て、シスター・テレサの二本の髪束の先端に受け止められている。

絶頂の叫びを終えて、ようやく意識を回復した梢は、自分の胸に起きた異常に気づき、顔をこわばらせた。

「あああ、どうして!? わたしの胸から、母乳が出るなんて、ありえない！」
「ワタシの髪に捕らわれた女はすべて、こうなりマス。快感をミルクに変えて、絶頂とと

もに嘖き出し、ワタシに飲ませるのデス。これがワタシの最高の美味デス」

「う、嘘だわ！ ハストウールお父様の娘のわたしが、こんな情けない身体にされるなんて……」

そういう間にも、まだミルクは垂れつづける。勃起乳首から全身へ、快感の波が伝わっていく。胸の快感に共鳴して疼く腰を、梢は無意識にくねらせてしまう。

シスター・テレサが喜々として黄金の髪をイソギンチャクのように揺らめかせ、高慢な言葉を向けてくる。

「ハストウールの娘でも関係ありマセン。これがヒュドラの力なのデス。もっと快楽に溺れてくだサイ」

髪束の一本が、ボディスーツの股間部分に触れた。ハイレグが右にずらされた。中に入っていた鰻が何匹もドボドボと海面に落ちて、恥丘がなにも隠されずに露出する。

盛大にミルクを射出して、胸の絶頂を極めた後でも、梢の恥丘はしっかりと閉じたまま。ふつくと盛り上がった中心を走る縦の亀裂は、ぴつちりと密着して、奈緒也以外は知らない秘密を保持している。

黒い水中から、落ちた鰻の群れが再び蛇のように伸び上がってきた。恥丘の表面にいくつも鰻が嘔みつき、歯が立てられる。

「はひひひいんっ！」

まま、女芯に喰いついていた鰻を放り投げた。

「イクうううううおおおお………おおんんん………んあああ………」

叫びは小さくなつたが、瞳はうつろのまま。苛烈すぎるエクスタシーに意識は沸騰して、今もぐらぐらと泡立っている。

随喜の涙をこぼし、涎を垂らす梢の顔を、シスター・テレサが覗きこむ。長い長い非人間的な舌が、様々な体液に濡れた獲物の顎を舐めまわした。

「いよいよ梢さんの女そのものを、鰻に犯させてあげマシヨウ。人間以外の生物と交わることこそ、神の娘にふさわしい悦びデス」

梢が反応を示したのは、シスター・テレサの言葉が終わつてから、十秒近くたってからだった。連続絶頂の余韻にゆだつた意識が、意味を理解するのにそれだけの時間がかかる。

「……………や、やあ、う、うなぎなんて……………んんう——ぜったいにい、いひやはああああ……………」

「すぐに悦んで、もつと犯して、と鰻に懇願するようになりマス」

シスター・テレサの言葉に従い、鰻が梢の股間に頭を近づける。それも二匹。その意味に梢が気づく前に、咲き誇る濡肉の花弁の中心に、一匹の鰻が頭を潜りこませた。

「ふおやあああああああ！」

途端に、肉壁が鰻を強く喰い締めた。侵入してきた異物を排出するためではなく、鰻を

離すまいとするために。梢の意志に関係なく、膣が鰻を歓迎して、奥へと呑みこもうと蠕動した。

巢穴を掘るかのように暴れる鰻の動きと、肉洞の強烈な収縮が、昂りきった肉体を快感の渦に落とした。

「あつ、はつああ、いいっ！」

なにも考えられず、歡喜の言葉だけが口をつく。

「あふえあああ、気持ちひひいいいい——いいのほおおつ、あくおおおう！」

新たな強烈な衝撃が、赤熱した鉄の槍のように未知の場所に突き刺さった。体験したことのない熱い悦楽で、尻の奥から脳髓まで貫かれる。

もう一匹の鰻が、梢の尻の谷間の奥にひっそりと咲く菊の蕾を攻撃したのだ。シスター・テレサの髪束のコントロールと、二度の連続絶頂の大波にさらされて、肛門はすっかりゆるんでいる。今まで誰の侵入を許したこともなく、奈緒也すら触れたことのない尻穴が、いとも簡単に鰻に蹂躪された。

「おつ、お尻ひいいいっ！ わたしのお尻にい、ふやあああ、お尻にひ、うなぎがはひつてきちえるううう——ううっ！」

生まれてはじめての肛門性交。それも愛する男のモノではなく、鰻に腸の中を陵辱されて、梢は信じられない喜びを味わってしまう。

本来排出するための場所を鰻にえぐられて、苦痛はまったく感じられない。魂が腐るような気持ちよさに支配されてしまう。

薄い粘膜一枚を挟んで、前後の肉孔の奥を、鰻に犯される。考えられるかぎり最悪の性の虐待が、梢を止まらない快楽地獄へ墮とした。

「いひいい、ひききいいいいい、いい、気持ちいい！ きもほちいいい！ きひちひいいのほおおおっ！」

三度目の絶頂は、さらに迅速に到来した。鰻に貫かれる女穴の奥、子宮の入口を鰻に噛まれる。同時に腸の奥の粘膜も、もう一匹に噛まれた。

「く……………」

喉がつまり、声どころか息を出すこともできない。梢の体内で二つの火球が巨大にふくれ上がる。充滿する絶頂の圧力で、身体が弾けそうになる。

「……………っ！」

呼吸を停止したまま、最大の絶頂に突入した。膣壁と腸壁が強烈に収縮し、女性器と肛門から同時に鰻が押し出される。二匹の生きた淫具を追って、大量の蜜液が黒い海面へ向けて噴出した。

ドジュッ！ ジュババババアアア——ッ！

同時に、左右の爆乳肉がぶるぶると震撼して、二つの乳首から三度目の白い大噴水が立



ち上がった。

ビシユシユ！ シュアアアアア——ッ！

大量のミルクはまたシスター・テレサを潤し、猛烈な愛液は黒い海を泡立たせる。

「あ、はああ、ぬけちゃった！ んっ、んん、わたしのなかから、きもちいいものがああ、ぬけちゃったのほおう……」

梢は自身を拘束する白い触手を揺らして、腰を前に突き出した。せり出した肉唇が餌を求める食虫植物のように開閉し、膣口から涎のように女蜜が流れ落ちる。発情しきった女性の凄まじい反応だ。

「おねがあい！ もつと、もつといつぱひいいい、わたしのなかにひい——、うなぎをいれてええ！ ふああん、うなぎい、わたしのちつにい、わたしのおしりのあなにいいい、どんだんはいってきちえええ——！ あっ」

ふいに梢の爛れた瞳の焦点が、自分を見つめる奈緒也の顔に結んだ。一瞬、濁りきった熱泥と化した意識が、すつと冷める。

（見られた！ 奈緒也くんに、恥ずかしすぎる姿を見られたわ！）

しかし奈緒也の顔には、梢の凄まじい恥態への怒りもあきれた色もなかった。別の神に肉体を操られる恋人を心配する痛切な表情だ。

奈緒也の思いが変わらないことを認めてほつとした梢の意識が、また快樂の熱い大波に

先端が、肌が露出している顔や手足にくっつくだけでなく、魔法少女の衣装の中にも潜りこんでくる。胸も、腹も、背中も、尻も、髪が貼りつく。

そして髪はかわいい純白のショーツの奥にも潜入し、子供のように無毛の恥丘に押しつけられ、小さい尻たぶの谷間の奥にまで侵食した。

だが、ルルの顔つきは変わらない。

激しい欲情の高熱に苛まれる表情とは、むしろほど遠い顔つきになる。

つぶらな瞳は冷ややかな光をたたえてシスター・テレサを見つめ、愛らしい唇にはあからさまな嘲笑を浮かべている。シスター・テレサも神の一部でなければ、見つめられるだけで言葉にできない恐怖で発狂している顔だ。

「なぜデスカ!? どうしてルルさんは、ワタシの髪の影響を受けないのデスカ?」

「わたしは梢とは違うわ」

ルルの視線が、今も海面の上で鰻に全身の性感帯を犯されつづけ、緊縛された肉体をよじらせる梢に向けられる。耳には、絶え間ない絶頂を訴える嬌声が聞こえた。

「梢は胎児として人間の女の子宮に宿ったときから、ずっと人間の世界にいるわ。魂も身体も、人間に毒されすぎてるのよ。だからヒュドラの髪に冒され、人間と同じ反応をするのね」

また、イクッうううううううう——!! と梢の絶叫が響く。

「わたしは、この黒い海で神の力をふるうことは封じられても、身体はクトゥルフお父様から分け与えられた純粹な神の肉体のままよ。ヒュドラのしょぼい力など、全然、ちっとも、効かないわ」

「そうデスカ。それなら、身体はともかく、魂が本当に人間に毒されていないのか、試してみマシヨウ。神にとつてはとるにたらない存在である人間を殺せば、クトゥルフの娘はどんな反応をするデシヨウカ？」

「韻ヶ埼の住人は、お父様の信徒で、わたしの眷属よ。他の神が殺すことは許さないわ！」
ルルの怒声を無視して、シスター・テレサの蛇身がひるがえった。太い蛇体が波をたて、海藻の束を押しつけて、茶色い泡に被われる海面へ進む。

進行方向には、粘つく泡の大群に捕らわれたままの奈緒也とボートに乗った正実がいる。蛇身がぐにやりと曲がり、シスター・テレサの顔が二人の男子へ迫った。

「というわけで、奈緒也くんと正実くんには、痛い目に、いえ、痛すぎる目にあつてもらいます」

息を呑む奈緒也と正実の前で、シスター・テレサの口が耳まで裂けた。唇だけでなく、口のまわりの肉が上下にまくれ上がり、灰色の歯茎にずらりと並ぶナイフの刃のように鋭い牙の列が出現する。

「ひいっ！」

「ふっああああ〜〜〜んん、精液いもらつてるうううん！ 精液大好きい！ 男の子の汁が好きすぎてええ、先生、イッチャううう〜〜〜んんんんん!!」

イキながら芽久美先生は、腰を上下前後左右に振りたくる動きをゆるめようとはしない。次の奈緒也の射精と自身の絶頂を求めて、淫らなダンスをつづける。

*

ルルは、奈緒也の裸身の色が変化し、いよいよ輝くトラペゾヘドロンが成長しているのを見た。破られて胸も股間も丸出しになった衣服も気にせず、目の前の壁となっている黒い巨漢へ吠える。

「そこをどけ！ わたしはナイアルトホテップ本体に用があるのよ。分身なんかと遊んでる暇はないわ！」

なにを言っても、二人の大男の顔つきも態度も変化はない。巨漢に個々の意志があるのかもわからない。ナイアルトホテップは同時に複数の異なる姿形の身体で存在できると父のクトウルフから教えられているが、この分身がいかなるステータスなのか不明だ。

真の地球の支配者の娘である自分が、なんの神の力も使えないのは腹立たしいが、この状況では体力に頼るしかない。

ルルは影を踏みこみ、ダッシュした。横に並んだ巨漢の足下を素早く走りぬけようとす。小柄な身体は人間に似せてはあるが、神の肉体から生みだされたはるかに強靱なものだ。トラップにかかって弱体化していても、並の人間よりも早く走れる。

しかし巨漢の動きは、さらに迅速だった。黒光りする腕が疾風のように伸びて、いとも簡単に首根っこを押さえつけられる。

「がーっ、放せ！」

わめくルルの身体が、子猫のように軽々と持ち上げられてしまう。両足が影から離れて、空中に浮かんだ。

「この黒い分身め！ ネフレンⅡカのつもりなの！」

ルルは幼児が暴れるように両手を振りまわして、黒く厚い胸板何度も殴りつける。両足の白いブーツを振り上げ、なにも隠されていない黒い特大サイズの男根と睾丸を蹴る。

だが、あいかかわらず巨漢の表情も態度も変化はなかった。男の急所をブーツの硬いつま先で打たれても、痛みはないようだ。

気がつくともうひとりルルの背後にまわり、細い両腕をつかまれる。ナイアルラトホテップの分身の意図が、ルルにもはっきりとわかった。

「やっぱり、わたしを犯すつもりね！ なんの意味があるのよ！」

ルルはセックスの体験は二度しかない。自分の触手で他人を犯したことは何度もある。

だが自分の性器を使ったことは、韻ヶ埼へ来たばかりのころに、奈緒也を使つての処女喪失と、正実の触手を相手にしたときだけだ。それも人間の女として創られた自分の肉体を試すのが目的だった。

「くだらないわ！ こんなことをして、うあつ」

破り取られたショーツから覗くルルの尻の谷間に、鋼鉄の硬さが押しつけられる。子供のように幼く小さい尻たぶが、強引に左右に押し割られる。それだけで恐ろしい違和感だ。硬度だけでなく、温度まで鋼鉄のように冷たい。もともと人ではないとはいえ、人体とは思えない感触だ。

尻だけでなく背中を二つに割られたように感じて、ルルの背筋がひとりでにびくにびくわなないてしまう。

「やめろ、こらっ！」

ルルは逃れるために尻を振ろうとするが、黒い巨根で釘づけにされたように、下半身を動かせない。できるのは両脚をばたつかせることだけだ。

「この、このこのこのっ！」

背後に首をよじり、自分の尻を犯そうとする男をにらみつけるが、なんの影響力もない。巨漢は変化のない表情で、ただルルの怒りの顔を見下ろすばかり。

ズズツ、と握り拳のような亀頭が前に進む。小さい尻の浅い谷間が、さらに大きく割ら

れて、すぐに谷底に到着した。

ごく小さく愛らしい肉の蕾に、怪物じみたサイズの黒い凶器が押しつけられた。反射的に、肛門がキュツときつくすぼまる。人間をモデルにして創られたために、反応も人間らしくなる。

「やめろって言うてるわ！ 適当に作られた分身風情が、クトゥルフお父様の唯一の娘に、ひきっ！」

メギッ！

口からの悲鳴とともに、肛門も悲鳴を発した。人間の常識を無視した龟头が、肛門括約筋の抵抗を歯牙にもかけず突入してくる。

メリリッ！ ヌギイ！ バジッ！

繊細な肉孔が、限界を超えて無理やりに拡張された。体組織の上げる苦鳴が連続する。

逆に上の口は、喉がつまって悲鳴も出せなくなった。

「……き……んっ……！」

大人の女でも、無事に受け入れるのは不可能な巨大龟头だ。人間に似せてはあるが人間ではないルルの肉体でなければ、確実に肛門の組織が引き裂けて、大量に出血している状態だ。

ギチッ、ヂチッ、メギッ！

「ぎいっ……」

身体を引き裂かれる激痛に、もともと色白のルルの顔が蒼白になり、額に青い静脈が浮き上がった。

全身が硬直して小刻みに痙攣し、空中の両脚が勝手に前後に揺れてしまう。

誕生してはじめて感じる苦痛。神の娘と生まれたからには、絶対に味わうことはないと考えていた痛みが、肛門から腸の奥へと侵略してくる。体内に凍りついた鉄の長い杭を打ちこまれ、容赦なく押しこまれていくようだ。今にも腸壁が破られても不思議はないと感じる。

「ルルちゃん、お尻が痛いでしょお」

前の巨漢の、黒い唇が動いた。顔の他の筋肉はいつさい動かず、不自然な合成映像のように唇だけが開閉して、容貌にまったくそぐわないほがらかな声が出た。

芽久美先生の声だ。

ルルが体内の激痛をこらえて、動く唇をにらみつけて吠える。

「ナイアルラトホテップ！ くだらないことするな！」

「うふふふ。クトウルフちゃんの先遣として人間の世界を調べる役目なら、ルルうちゃんも人間の苦痛を知らなくっちゃね」

「うるさいわ、あぎいっ！」

「芽久美先生が、担任教師として、ルルちゃんに人間の痛みを教育してあげるのよお」
メキョッ！ ギジュッ！

体内の破壊音が連続する。あちこちで冷たい苦痛の氷が、神経に鋭い刃を突きたてる。尻から腹を凍らせては、粉碎していく。

痛みへの激震に全身をわななかせて、ルルは感嘆した。

「これが、人間が感じる苦痛だというの！ 人間はこんな痛みには耐えなくてはならないなんて」

「人間に同情おするかしら？」

「まずまず、はじめで哀れな人間なんかには、お父様の地球をまかせておけないと思うわ、あきついいいいいっつ！」

芽久美先生の声を出している前の巨漢が、なんの前ぶれもなしに、亀頭をルルの女性器に突きたてた。膣口が一瞬で何倍にも広げられ、幼い恥丘が変形してしまう。

今までにルルの膣に挿入されたのは、奈緒也のペニスと正実の触手だけ。どちらもナイアルトホテップの分身の巨根に比べれば、はるかに小さく、やわらかい。冷たい破壊者が、小柄な体形にふさわしい狭い穴に攻め入ってくる。

ギチギチギチッ、グキキッ、ギチュッ！

新たな激痛とともに、子供らしい平坦な腹が盛り上がった。白い皮膚に、くつきりと常

識はずれのサイズの亀頭と肉幹の形状が浮かぶ。今すぐにも内側から腹が破れないのが不思議な状態だ。

「くきつ、し、子宮まで！」

忌まわしい亀頭が、子宮口に到達した。ギリギリと拡張されるのが、冷たい苦痛とともに、いやというほどわかる。

「子宮まで、入ってくるっ！」

クトウルフの先遣たる自分に子宮が必要なのか、ルルにはよくわからない。とにかく存在する女だけの器官を、男のシンボルの怪物に蹂躪されている。

「こんな、こんなことが、くきいいいいっ！」

前後から膣と腸に黒い肉杭を打ちこまれ、ルルは自分では身じろぎすらできなくなる。

巨漢たちの手はルルの身体をつかんではいない。ルルの体重を、二本の勃起の力だけで支えていた。ルル自身の体重が、ルルの肉体を破壊しようとしているのだ。

二人の分身の唇が同時に動き、芽久美先生の声がきれいにデュエットした。

「このままルルちゃんの身体を、わたしのおちんちんで中から引き裂いて、二つか三つにバラしちゃおうかな。うふふふふ」

「そんなことをすれば、きひっ！」

「なんちゃってえ、そこまでやつちやうとクトウルフちゃんが怒るよね。あんまりクトウ

ルフちゃんとは、マジいな喧嘩をしたくないのよね。それじゃあルルちゃんも痛みは骨身に沁みただから、今度は快感を教えてあげるわ！」

肛門と腸を埋めつくす凶悪な肉棒と、膣と子宮を陵辱する獰猛な男根の鈴口から、何の前ぶれもなしに精液が噴出した。

ルルは体内で炸裂する新たな刺激に、頭をのけぞらせ、後頭部を分身の厚い胸にぶつけて叫んだ。

「うあつ、な、なに!! なんなのっ！」

前後の巨漢の顔に歓喜や悦楽の色はなく、無表情のまま猛烈な勢いで射精をつづける。

「あつ、あくうっ、身体が、浮いちゃうううっ！」

二人分の超射精の水圧で、本当にルルの小柄な身体が押し上げられていく。体内にはとても収まりきらない量の精液が、大きく広がった膣口と肛門からドボドボとあふれて、影の上に落ちた。

「くうっ、あ、ああっ！」

なにをされたのか、ルルにはわからない。他の神の力をすべて知っているわけではなかった。とくに超次元の混沌神ナイアルラトホテップの力など、クトゥルフの娘の理解を絶している。

ただひとつ確かなのは、長い射精が止まると、今まで感じていた身体を内側から引き裂

かれる激痛が、突然反転したことだ。

「気持ちいいっ！」

思わず叫んでしまう。以前に正実の触手に襲われたときは、余裕をもって女体の快感を楽しむことができた。

しかし今は違う。ナイアルラトホテップの分身ごとくに嬲られて、苦痛を感じるのも、快楽を感じるのも、同じく屈辱だ。なだらかな胸の奥で、自分をもてあそぶ芽久美先生への怒りが燃えている。

それなのに恥辱の言葉を叫んでしまう。

「気持ちいいひひい——いいいいっ！」

苦痛しか感じられない状態で、ルルの全身で言語を絶した快感が爆発した。思考も感情も粉々に吹き飛ばして焼きつくす、肉悦の大噴火が途切れなく連続する。

「うふふふ。先生の分身一号二号の精液いで、ルルちゃんの神経をちよつといじっちゃつたのよ。テレサちゃんの髪の毛は、ルルちゃんの身体には効果がなかったけど、先生の力は効くでしょお。痛みが全部気持ちよくなるから、輝くトラペゾヘドロンの精製が終わるまで、楽しんでいてねえ」

前後からの四本の剛腕で、ルルは両肩と左右の脇腹をがっちりつかまれた。そのまま息の合った動きで、身体を上下に動かされ、左右に揺さぶられる。もはやセックスという



状況ではなく、二人の巨漢が自分の肉棒をしごくためのオナニー道具として、ルルの小さい身体を使っているだけだ。

神の娘としてあまりに屈辱すぎる仕打ちを受けながら、ルルの全身が人外の快楽に漬けてこまれ、まともな思考はできなくされていた。

「きゅっ、きゅもちひいいい——いいいっ！ きゅゅゅゅゅゅ——んんんんっ！ きゅゅゅゅゅゅるるるるうううう——うううううう——」

人間とは異なる歡喜の咆哮を上げて、ルルの身体はメチャクチャに動かされ、揺さぶられつづける。

「きゃきつ！ くきゅゅゅゅ——ゆゆるるるるる！ ルルリユリユラユユ——」
ルルの悦樂の聲が、急速に人間のものではなくなっていく。喉からほとばしるのは、深き者たちに近い鳴き声だ。

「——ラララッリリリリリリ——リユルルルルキキキキキキ——」

愛らしい美貌が高熱に焙られた飴細工のように甘ったるく蕩けて、いつもの高圧的な雰囲気も跡形もなく崩れ落ちた。精神も人格も、さらに神性までも破壊しつくそうとするおぞましい快樂の大嵐に翻弄されて、地球の真支配者の娘としてのプライドがグズグズと失われてしまった。

「——キキ——」

「ユキキ——」

「……………」

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

仙獄学園戦姫

ノブナガツ! comic



信長が、秀吉が、義一が、エツチにバトルにと漫画で大活躍！
もうひとつの『仙獄学園戦姫ノブナガツ!』がここにある!!

待たせたら

毎月中旬
発売!!

18歳未満の方は
購入できません

18

漫画：老眼
原作：斐之嘉和
キャラクター原案：SAIPACO

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス
『闘神艶戯』偶数号にて連載中!

編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコビル TEL:03-3555-3431 (販売) FAX:03-3551-1208

<http://ktcom.jp/>

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価 / 690円(税込)



全国書店で
好評
発売中



平凡な少年が女体化!
鬼に狙われた
従姉妹を護れ!!

目覚めると従姉妹を護る美少女剣士に
なっていた

〔小説・狩野景 / 挿絵・天鬼とろり〕

思春期なアダムら
アウトサイドピア
爪説◎さかき傘 / 挿絵◎天海雪広



全国書店で
好評
発売中



真夏のキャンプ場で勃発する
天使VS魔族VS人間の
三つどもえバトル!

オトミッコ! 僕は男の巫女娘

〔小説・大熊狸喜 / 挿絵・大空樹〕



全国書店で
好評
発売中

男の子と女の子——
二つの性の間で揺れ動く
男の娘が巻き起こす学園ラブコメディ!!

既刊LINEUP

全国書店で好評発売中

- 幽霊学園戦姫 / プナガツ ①~④
- ビルグリムメイド ①~③
- 不死の吸血鬼がDSのご主人様を募集しているようです

- 思春期なアダム ①~④
- 涼風唯らい雨【カースイーター】 ①~②
- 女幹部メル様のカイセキ計画!
- 借金お嬢クリス ①~③
- 無敵の剣士がDMに目覚めたようです
- 宇宙海賊学園ブラックキャット



魔海少女ルリエル

「地球の未来はルルにお任せよ♥」突然風呂の中から現れた美少女は、地球の旧支配者クトゥルフの娘!? 友達(信徒)を増やし地球支配を目指すルルの前に、ハストゥールの娘が現れ、さらに「外なる神」の力を持つ者まで登場し……。人智を超えたバトルとエロの名状しがたき物語が始まる!!

小説●羽沢向一
挿絵●ピエ〜ル☆よしお



全国書店で
**好評
発売中**

目覚めると従姉妹を護る 美少女剣士になっていた

退魔師の分家筋に生まれた一条遼は、ある夜目覚めると身体が女になっていた!! さらに時を同じくして従妹の結女が、鬼への生け贄「鬼慰姫」として狙われ始める。遼は結女を守る「鬼斬姫」の役割を果たすため、身体が女体化したらしく!? 鬼斬姫となって退魔の力を得た遼は、果たして鬼たちの手から片思い中の従妹を守れるのか!?

小説●狩野景
挿絵●天鬼とうり



全国書店で
**好評
発売中**

**思春期なアダム**

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田睦月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった！ごく普通の少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する！

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**

思春期なアダム 2

背後をねらう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、睦月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たな刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱！“蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女＆美少年(!?)たちの誘惑で、睦月も新たな局面に…？

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**



思春期なアダム3 一人泣きの子猫

蛇眼の力を持つ睦月をそれぞれの思惑で見守る、天使少女に悪魔少年＆秘密組織の美少女たち。そこに睦月の命を狙う刺客——黒猫が再び襲いかかる…も、睦月は球技大会のバレーボール特訓や、蛇眼の力を抑えるためのエッチに大忙し!? 果たして彼の力を手に入れるのは誰だ!?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**

思春期なアダム4 聖域の崩壊

少女天使エンジュを核にして動き出した天使サイドの計略により、睦月たちの学園生活がついに大崩壊を迎えることに!?! FeTUSとの全面衝突の危機に際して、マキナそしてミスAが立ち上がる…。蛇眼の少年、睦月にはこの戦いを止める術は無いのか!?! 緊迫の新展開!!

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**



呪詛喰らい師

人の強い想いを糧とする半妖神——淫神。常磐城咲妃は、呪印術と「ウズメ流神伽の戯」を駆使し、時にはその豊満な身体を差し出して彼らを鎮めていた。そんな彼女が派遣された街では淫神事件が次々と起き始めて……!? 迫りくる魔の手から友を守るため、咲妃は淫らな戦いに身を投じる!!

小説●蒼井村正
挿絵●或斗せねか

蒼井村正
挿絵●或斗せねか



全国書店で
好評
発売中

呪詛喰らい師2

人に害なす淫神を鎮める学生退魔師・常磐城咲妃。彼女の通う槐宝学園に転校してきたのは——春先に彼女を襲撃してきた瑠那・イリュージアだった!! 咲妃になつた彼女は、咲妃たちといっしょに学園生活を送り始める。さらに「ゼムリヤ・イリュージア」と名乗る謎の女性が咲妃をペットにしようと狙ってきて……!?

小説●蒼井村正
挿絵●或斗せねか

蒼井村正
挿絵●或斗せねか



全国書店で
好評
発売中

コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト <http://ktcom.jp/>



title:

ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』

トキサナ

『DSの流儀』

chaccu

『生徒会長前哨戦?』

天道まさえ

title:

発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉



電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中! ※18歳未満の方は購入できません。

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- ◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- ◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアル**のバックナンバー**も買えるよ!
- ◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!
来かねる場合がございます。い場合、お手数ですが再度お問い合わせください。
- ◎二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!

VALKYRIE



<http://www.comic-alkyrie.com/>

cranberry



<http://www.cran-berry.com/>

mille-feuille
ミルフィーユ



<http://www.mille-feuille.jp/>

**モバイル二次元
ドリーム**



<http://www.2d-dream.jp/>



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!